

..... 編集後記

◆久しぶりの浅間火山の噴火、巨大地震の前触れかとも思われた紀伊半島沖の地震、そして大型台風襲来と、まさに「日本列島は災害列島」の感のする1ヶ月でした。地質学も一層「災害対策」への貢献を迫られているのでしょうか。

◆さて本号は、放射性廃棄物の地層処分に関する研究を進める「深部地質環境研究センター」の特集号です。放射性廃棄物とは、原子力発電所などから出される放射性物質を含んだ廃棄物のことです。

私達は毎日電力を様々な形で利用しており、電力なしには過ごすことができないと言っても過言ではありません。そして、わが国で使われる電力の3分の1が原子力発電に依存しており、誰もが毎日、原子力でつくられた電力を使用して生活しています。

◆温暖化が危惧される今、炭酸ガスを出さない原子力発電は貴重な電力資源ですが、その一方で量は比較的少ないものの、有害な放射性廃棄物が発生します。これらをどう処分するのが世界的な大問題になっています。

◆この大問題と取り組む「深部地質環境研究センター」における様々な研究が紹介されています。まず、磯部氏が「深部地質環境研究センター」と本特集号編集の経緯について述べられ、次に笹田氏が地層処分研究の背景と中期計画について詳しく述べられています。

◆竹野氏は「天然バリアの安全評価への地球科学の寄与」と題して、この研究のさまざまな側面を理論

的に考察しています。張・竹田氏は地層や岩石内での地下水等による物質の移行特性の評価法についての基礎理論を紹介されています。

◆さらに、小林・杉山氏は鳥取県西部をモデルに進めているより精密な活断層検出法開発の現状を紹介されています。

◆この世界的な問題の解決には国際的な協力も重要。笹田・宮城氏がフィンランド、月村氏がアメリカ、渡部氏ほかの方々がスイスにおける地層処分の研究組織や研究の進行状況などを詳しく紹介されました。

◆家庭で毎日出すゴミ・廃棄物は私達自身で出しているという実感があり、少しでも減らそうと努力していますが、毎日便利に使っている電力をつくるために原子力発電所から出る廃棄物のことはすっかり忘れてるのが常。私達一人一人が、放射性廃棄物が安全に処分されるよう見守っていくことも大事なことでしょう。

◆地質図幅の紹介は長森氏ほかによる「戸隠」、地質図と説明書を小脇に抱え、紅葉をめ、新そばを食べに出掛けてみたいものですね。石原特別顧問によるPitcher教授の追悼、宮地氏・中澤氏の「地球は火山がつくった」・「Microfacies of Carbonate Rocks」の書評も是非御一読下さい。

◆次号の編集後記の冒頭には、自然災害に関係ない明るい話題が書けると良いのですが、でも台風はまだまだきそうです。(須藤定久)

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤定久

副委員長：山本茂男

委員：高木哲一・丸山 正・高橋裕平・

光畑裕司・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3603

Fax. 029-861-3602

地質ニュース 第602号 2004年 10月号

定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費

2004年10月1日 発行

編集

発行人

発行所

産業技術総合研究所

株式会社 実業公報社

代表者 林 光生

株式会社 実業公報社

東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073

Tel. (03) 3265-0951 Fax. (03) 3265-0952

http://www.jitsugyo-koho.co.jp

E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp

振替口座 00110-6-32466

麹町局私書箱第21号

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

© 2004 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。